

地域医療連携における SS-MIX2コンバータの提供

近年、高齢者の増加と疾病構造の変化により、住み慣れた地域で生活するための医療を地域全体で支える地域完結型医療の提供が求められています。しかしながら、地域完結型医療で必要となる医療機関同士の医療情報の共有は遅れており、業界標準規格の「IHE」、「SS-MIX2」が定着した段階です。医療情報を公開するための標準規格であるSS-MIX2の形式でデータを作成するプログラムを開発し、お客様への適用を開始しています。当社は、電子カルテシステムの導入を検討されている医療機関や、SS-MIX2に未対応の電子カルテシステムを導入されている医療機関に対して、地域医療連携の普及を支援していきます。

国が進める地域医療構想

少子高齢化社会の到来により高齢者が増加し医療費の増加が懸念されています。国民皆保険制度を維持するために、制度の継続性を高める不断の取り組みが必要となっており、医療・介護サービス関係者が一体となって医療サービスの維持・向上と同時に医療費の効率化・適正化を図ることが喫緊の課題となっています。

厚生労働省は一人ひとりが住み慣れた街で最期までその人らしく生きることを保障するための方法として、地域(市区町村単位の二次医療圏および老人福祉圏)の実情に合わせた医療・介護の提供体制の確立を市区町村に求めています。地域の特性(年齢別人口比率や疾患比率など)に合った医療提供体制を確保しながら、医療提供の量(病床機能、病床数)を管理し、質(医療連携、医療安全)を評価することで医療費の低減に向け改善を行っていくことが必要となっており、市区町村が地区医師会と連携し医療・介護体制の見直しのためにさまざまな取り組みが実施されています。

医療提供体制の改革の両輪となるのは厚生労働省が管理する診療報酬(医療費)および、新たな財政支援制度で

ある地域医療介護総合確保基金です。2016年4月から施行された診療報酬改定では、ICTを活用した医療情報の提供を行う医療機関には診療報酬が加算され、地域医療連携に参加しやすい環境が作られています。また、地域医療介護総合確保基金は、2015年度は前年度に比べて地域医療構想の達成に向けた事業に充当される比率が伸びており、それぞれの地域で医療提供体制改革への取り組みが活発化しているものと思われます。

ICTを活用した地域連携に 不可欠な医療情報の共有

厚生労働省が進める地域完結型医療では、地域包括ケアシステムにより地域における医療・介護サービスの提供体制を確立し、ICTを活用した地域医療連携ネットワークを構築することによって、医療・介護サービスの情報連携を推進しています。これは、

地域の医療機関と介護事業者が連携して医療・介護サービスを提供する際に、各施設で発生した医療・介護情報を共有することにより、患者のニーズに合った効率的なサービスを提供する仕組みです(図-1)。

しかし、医療機関ごとに異なるメーカーの電子カルテシステムが導入されており、メーカー独自のデータ構造で運用されていることから参照には制約がありました。厚生労働省は、異なるメーカー間でもデータ参照ができるように、シームレスな連携を実現するためのIHE(Integrating the Healthcare Enterprise)標準規格の採用を推奨しています。

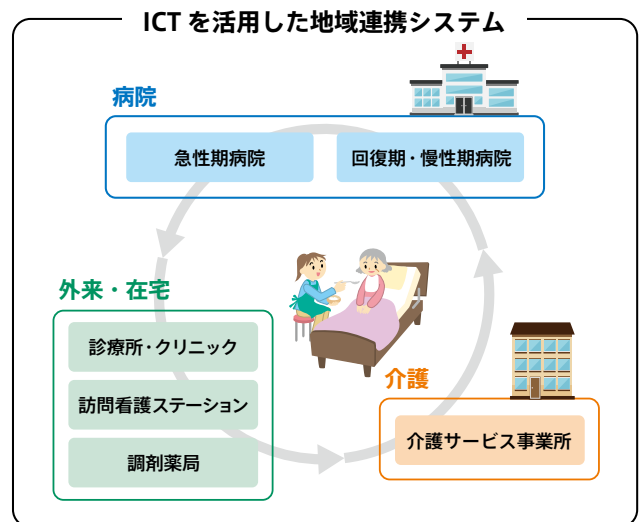


図-1 ICTを活用した地域連携とは

医療機関が運用している医療情報システムは、医事会計、電子カルテ／オーダ、看護支援、健診、介護、さらに関連医療機器や検査装置などが運用されており、それらの連携はもちろん、他の医療機関や地域連携システムとの情報の共有を実現するためには、各システム間の相互運用性がより強く求められます。IHEは、医療情報システムの相互接続性を推進する国際的なプロジェクトであり、業界標準規格です。IHEのガイドラインに準拠することで、個別の設定やカスタマイズを行う必要はなく、機器やシステムのメーカーを問わずシステムの連携が可能となります。

当社では、医療機関の特性に合ったメーカーの電子カルテシステムを提案してきました。ここにきて、病院が採用している電子カルテシステムで他病院とデータ連携がとれる仕組みがほしいというニーズが高まり、情報共有を行う上でのデータ標準規格SS-MIX2に合わせたデータコンバートのプログラムの開発、提供を開始しました。

SS-MIX (Standardized Structured Medical Information eXchange) は、地域医療連携や部門システムと情報交換できるように診療情報を標準的な形式で蓄積・管理し保存する仕様であり、2012年に公開されたSS-MIX2が医療情報の蓄積・管理の最新の標準仕様となります。SS-MIX2形式の標準・拡張ストレージへの医療情報の格納に際して、SS-MIX2のデータ作成機能を持たない電子カルテシステムでは、業務パッケージシステムから中間データベースにデータを蓄積した後、SS-MIX2登録ソフトウェアでデータ編集を行い、地域連携院内サーバ内の標準ストレージにデータを送信します。また、文書情報(PDF形式)などは直接、拡張ストレージに記録します(図-2)。

地域連携への参加予定の医療機関へ導入拡大を

全国の病院(20床以上の医療機関)の2014年における電子カルテシステム導入率は3割程度となっています。今後は医療情報の共有化が進み、電子カルテシステムと地域連携システムの構築を検討する医療機関が急速に増加することが想定されます。当社ではSS-MIX2コンバータを提供することで、地域連携システムに参加する医療機関の拡大に貢献したいと考えています。

当社は、このSS-MIX2データ作成技術を活用し、医事会計システムや電子カルテシステムの導入時に地域連携システムに参加できるよう提案を行っていきます。

当社が販売した医事会計システムと、導入されている他社製の電子カルテシステムの運用では、SS-MIX2の標準化に未対応の電子カルテシステムが

あるため、電子カルテシステムのデータ構造に合わせてSS-MIX2データを作成し、地域連携に参加できるようにシステム構築を支援しています。東京都国分寺市では、国分寺病院を中核とした医療連携での運用を2016年4月から開始しました。同病院が採用した電子カルテシステムは、SS-MIX2のデータ抽出機能が未対応でしたが、当社のSS-MIX2コンバータで地域連携システム用にデータが提供できるようにしたものです。

今後は、地域の医療機関との医療情報の共有化だけでなく、介護施設や介護サービス事業者が持つ介護情報の共有化も推進されることが想定され、地域連携システムの普及を支援していきます。

(SIソリューション事業部 田村 学)

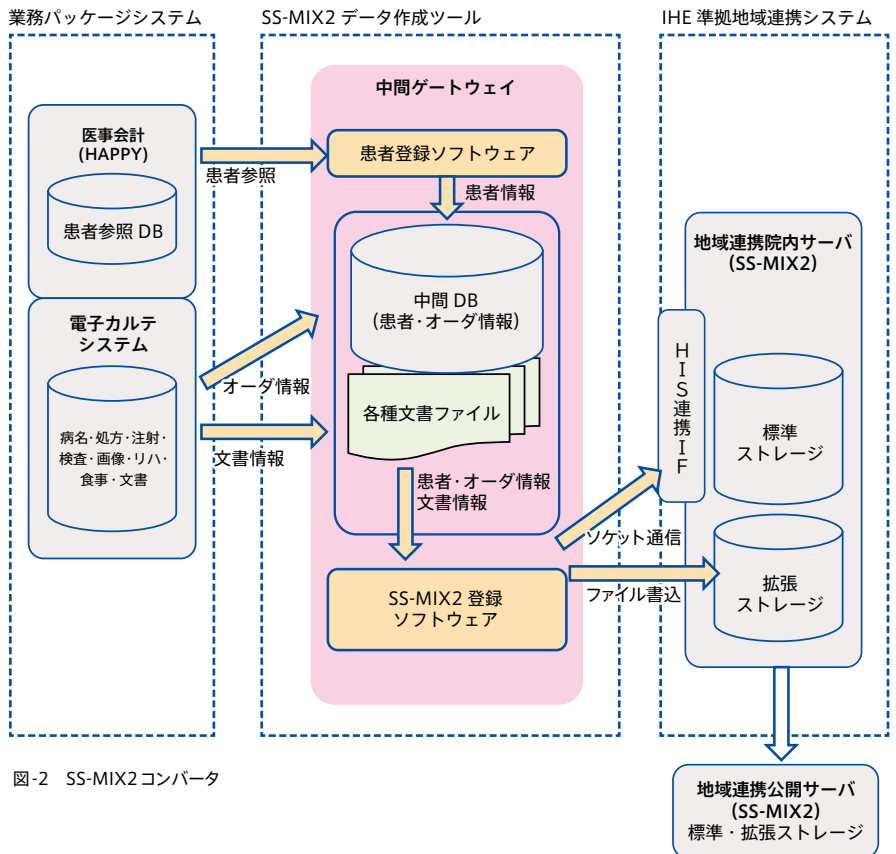


図-2 SS-MIX2コンバータ